

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

外国語（英語） 高校

AI時代も人と伝え合う力を、段階を追って育てる英語へ

10秒でいうと　英語コミュニケーション→同(総合)、論理・表現→英語コミュニケーション(発信)に改称

高校では、科目の名前を変える案が出ています。「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション(総合)」になる案です。「論理・表現」は「英語コミュニケーション(発信)」になる案です(どちらも仮称)。発信の科目では、話す・書く活動を中心にした授業へ改める方向です。CEFR B2レベル相当以上の英語力などを条件に、必履修科目の免除・振替を認める案もあります。

1 科目名を「総合」と「発信」に変える案

両方の科目名に「英語コミュニケーション」を付け、英語で伝え合うことが中心だと示す案です。「総合」は5つの領域をまとめて扱う科目です。「発信」は、話すこと(やり取り・発表)と書くことで発信力を強める選択科目です。科目名はどちらも仮称です。
P281　資料編(3)P22(外㉒)

授業では たとえば、総合の科目で読んだ話題を発信の科目の意見文や話し合いでも使うなど、2科目の内容をつなぐ計画が考えられます。

2 発信の科目は「使う」授業へ

今の「論理・表現」では、授業で英語を使う機会が十分でない実態があると指摘されています。新しい発信の科目では、スピーチやディベートなどに加え、「日常的な会話」も扱う方向です。書くことは、書く過程を大切にする指導を強める考え方です。P277　資料編(3)P23(外㉓)

授業では たとえば、相手の話に質問や感想を返して会話を続ける活動を、毎時間のはじめに短く入れることが考えられます。

3 入学初期に学習状況をつかみ、中学の学びを使う

高校では入学してすぐの時期に、生徒の学習状況をきちんとつかむことが示されています。そのうえで、中学校で学んだことを繰り返し使い、考えて表現する活動を重視します。高校の「社会的な話題」にも、身近なものを含める方向です。
P281　資料編(3)P22(外㉒)

授業では たとえば最初の単元で、中学校の文法を使う短い発表をさせ、つまずきをつかんでから年間計画を調整することが考えられます。

4 B2相当以上の力がある生徒の免除・振替

必履修の英語コミュニケーション(総合)Ⅰ(仮称)について、外部試験を使った免除・振替の案が示されています。必要な英語力はCEFR B2レベル相当以上が適切とされています。ただし、B2相当があれば免除できるわけではありません。社会的に信頼された外部試験の合格、振替先の科目で力を発展的に育てられること、本人の実態や希望から振替の方が大きな成果が見込めること、の3つをすべて満たす場合が対象です。
そのうえで、学校として実施できる場合に限る仕組みとされています。振替先には、発展的な学習や英語以外の外国語を学ぶ学校設定科目などが考えられています。細かい中身は解説等で定めるとされています。P48　P49　P284

授業では たとえば英語科で、対象になりそうな生徒がいるかを確かめます。振替先の科目を学校で用意できるかを、早めに話し合うことが考えられます。

ほかにも変わること（高校）

- 科目名を変える案 P281　資料編(3)P22(外㉒)
- 新単位で表すが、標準単位数の位置付けは現行相当 P80　P81　P82　資料編(3)P24(外㉔)
- 英コミュ(総合)は領域統合をいっそう重視 資料編(3)P23(外㉓)
- 英コミュ(発信)は発信力をさらに強化 資料編(3)P22(外㉒)　資料編(3)P23(外㉓)　資料編(3)P46(外㊻)
- 論理・表現の「文法解説中心」を改める　P277　資料編(3)P23(外㉓)
- 科目間のカリキュラム・マネジメント 資料編(3)P22(外㉒)
- 社会的な話題に「身近なもの」を含める　資料編(3)P22(外㉒)　資料編(3)P45(外㊺)
- 入学初期に学習状況をつかむ P281

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜
2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ(2026年10月5日)。告示前の方向性です。